

特集

南北問題

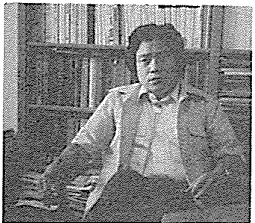
Development through Cooperation 協力による開発

相互依存の

国際社会にむけて

相互依存の国際社会にむけて
相互依存の国際社会にむけて
相互依存の国際社会にむけて

出 席 者
(略称) 湯川 助 子
(経済学部教授)
編 集 部 代 表



小林 教授

小林 教授
相互依存の国際社会にむけて
相互依存の国際社会にむけて

技術協力の問題
相互依存の国際社会にむけて
相互依存の国際社会にむけて

相互依存の国際社会にむけて
相互依存の国際社会にむけて
相互依存の国際社会にむけて



近代的設備をもつ途上国の紡績工場

新国際経済秩序とUNCTADの将来

新国際経済秩序
UNCTADの将来
相互依存の国際社会にむけて

相互依存の国際社会にむけて
相互依存の国際社会にむけて
相互依存の国際社会にむけて



湯川 助 教授

湯川 助 教授
相互依存の国際社会にむけて
相互依存の国際社会にむけて

相互依存の国際社会にむけて
相互依存の国際社会にむけて
相互依存の国際社会にむけて

相互依存の国際社会にむけて
相互依存の国際社会にむけて
相互依存の国際社会にむけて

相互依存の国際社会にむけて
相互依存の国際社会にむけて
相互依存の国際社会にむけて

相互依存の国際社会にむけて
相互依存の国際社会にむけて
相互依存の国際社会にむけて

「今後の日本民族の課題は、日本を理想的文化国家、福祉国家として建設し万国に範を垂れ、世界の平和と人類の幸福の為に貢献する事、この課題に答える事こそが、次の世代の日本を担って立つ諸君の国民的使命なのであります。」
一故荒木俊久総長の葬告書より一

展覧会 発展の展望

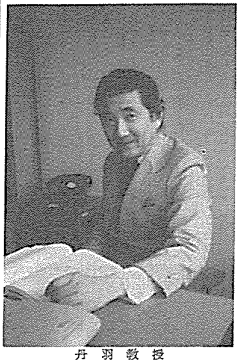
展開の現状

戦後、我が国の展覧会は、戦時中と同様に、単に物の陳列にとどまらず、文化の交流と知識の普及の場として、重要な役割を果たしてきた。戦後、経済の回復と共に、展覧会も大規模化、多様化する傾向がある。特に、国際展覧会への参加が盛んになり、世界の文化と我が国の文化との交流が促進されている。また、民間企業による展覧会の開催も増加しており、文化活動の多様化が進んでいる。

自由化 門戸開放が大前提

自由化 門戸開放が大前提

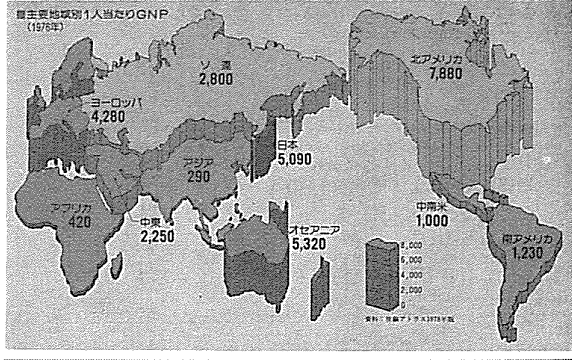
自由化と門戸開放は、我が国の展覧会が国際化を進める上で大前提となる。自由化とは、貿易障壁の撤廃や規制の緩和を意味し、門戸開放とは、外国からの技術や資本の流入を許すことを指す。これらにより、我が国の展覧会産業は国際競争力を持ち、発展の機会を得られる。また、自由化と門戸開放は、文化の交流と知識の普及にも寄与し、我が国の文化レベルを向上させることにつながる。



丹羽春喜教授

自由化 門戸開放が大前提

自由化と門戸開放は、我が国の展覧会が国際化を進める上で大前提となる。自由化とは、貿易障壁の撤廃や規制の緩和を意味し、門戸開放とは、外国からの技術や資本の流入を許すことを指す。これらにより、我が国の展覧会産業は国際競争力を持ち、発展の機会を得られる。また、自由化と門戸開放は、文化の交流と知識の普及にも寄与し、我が国の文化レベルを向上させることにつながる。



発展の展望

展覧会産業の発展は、自由化と門戸開放の推進に大きく依存している。自由化により、外国からの技術や資本が流入し、展覧会産業の競争力が向上する。また、門戸開放により、外国からの技術や資本が流入し、展覧会産業の競争力が向上する。さらに、自由化と門戸開放は、文化の交流と知識の普及にも寄与し、我が国の文化レベルを向上させることにつながる。

自由化 門戸開放が大前提

自由化と門戸開放は、我が国の展覧会が国際化を進める上で大前提となる。自由化とは、貿易障壁の撤廃や規制の緩和を意味し、門戸開放とは、外国からの技術や資本の流入を許すことを指す。これらにより、我が国の展覧会産業は国際競争力を持ち、発展の機会を得られる。また、自由化と門戸開放は、文化の交流と知識の普及にも寄与し、我が国の文化レベルを向上させることにつながる。

自由化 門戸開放が大前提

自由化と門戸開放は、我が国の展覧会が国際化を進める上で大前提となる。自由化とは、貿易障壁の撤廃や規制の緩和を意味し、門戸開放とは、外国からの技術や資本の流入を許すことを指す。これらにより、我が国の展覧会産業は国際競争力を持ち、発展の機会を得られる。また、自由化と門戸開放は、文化の交流と知識の普及にも寄与し、我が国の文化レベルを向上させることにつながる。

自由化 門戸開放が大前提

自由化と門戸開放は、我が国の展覧会が国際化を進める上で大前提となる。自由化とは、貿易障壁の撤廃や規制の緩和を意味し、門戸開放とは、外国からの技術や資本の流入を許すことを指す。これらにより、我が国の展覧会産業は国際競争力を持ち、発展の機会を得られる。また、自由化と門戸開放は、文化の交流と知識の普及にも寄与し、我が国の文化レベルを向上させることにつながる。



偏く子供たちアフリカのバングラスピーアにて

自由化 門戸開放が大前提

自由化と門戸開放は、我が国の展覧会が国際化を進める上で大前提となる。自由化とは、貿易障壁の撤廃や規制の緩和を意味し、門戸開放とは、外国からの技術や資本の流入を許すことを指す。これらにより、我が国の展覧会産業は国際競争力を持ち、発展の機会を得られる。また、自由化と門戸開放は、文化の交流と知識の普及にも寄与し、我が国の文化レベルを向上させることにつながる。

自由化 門戸開放が大前提

自由化と門戸開放は、我が国の展覧会が国際化を進める上で大前提となる。自由化とは、貿易障壁の撤廃や規制の緩和を意味し、門戸開放とは、外国からの技術や資本の流入を許すことを指す。これらにより、我が国の展覧会産業は国際競争力を持ち、発展の機会を得られる。また、自由化と門戸開放は、文化の交流と知識の普及にも寄与し、我が国の文化レベルを向上させることにつながる。

国際児童年と 途上国の子供達

国際児童年は、世界の児童の権利と福祉を促進することを目的として設立された。途上国の子供達は、貧困や教育の不足に悩んでいる。国際児童年は、彼らの生活改善と教育促進に貢献する。また、途上国の子供達は、我が国の文化と知識を学ぶ機会を得ることができる。国際児童年は、世界の平和と繁栄のために努力している。

自由化 門戸開放が大前提

自由化と門戸開放は、我が国の展覧会が国際化を進める上で大前提となる。自由化とは、貿易障壁の撤廃や規制の緩和を意味し、門戸開放とは、外国からの技術や資本の流入を許すことを指す。これらにより、我が国の展覧会産業は国際競争力を持ち、発展の機会を得られる。また、自由化と門戸開放は、文化の交流と知識の普及にも寄与し、我が国の文化レベルを向上させることにつながる。

自由化 門戸開放が大前提

自由化と門戸開放は、我が国の展覧会が国際化を進める上で大前提となる。自由化とは、貿易障壁の撤廃や規制の緩和を意味し、門戸開放とは、外国からの技術や資本の流入を許すことを指す。これらにより、我が国の展覧会産業は国際競争力を持ち、発展の機会を得られる。また、自由化と門戸開放は、文化の交流と知識の普及にも寄与し、我が国の文化レベルを向上させることにつながる。

結ぶあう世界 だから対話を

国際関係の改善と平和の達成のために、対話と協力を進めよう。青年海外協力隊は、国際社会の発展と平和の達成に貢献している。結ぶあう世界 だから対話を。国際関係の改善と平和の達成のために、対話と協力を進めよう。青年海外協力隊は、国際社会の発展と平和の達成に貢献している。結ぶあう世界 だから対話を。

京都産業大学国際関係学会 設立の告知

このたび私達新聞局を中心に、本学の建学の精神に基づき、「国際的視野」をもち、国際社会の発展と平和の達成に貢献するために、京都産業大学国際関係学会を設立することになりました。今後、ますます相互依存の深まる国際社会の中で、私達は国際社会に寄与してゆくものでなければなりません。国際関係や海外情勢に興味をお持ちの方を、本学会4階の事務局B OXにぜひお申し込みください。

世界を眺めて 幸せと繁栄を

世界を眺めて、幸せと繁栄を。国際関係の改善と平和の達成のために、対話と協力を進めよう。青年海外協力隊は、国際社会の発展と平和の達成に貢献している。世界を眺めて、幸せと繁栄を。国際関係の改善と平和の達成のために、対話と協力を進めよう。青年海外協力隊は、国際社会の発展と平和の達成に貢献している。

シン普森嬢
日本文化を語る

「この日本文化を学ばせて頂いて、こんなに楽しい時間はない、日本文化の奥深さを知ることができて、とても嬉しい。日本文化の魅力を、海外の人々に伝えることができて、とても嬉しい。」



英国女性から見た日本陶芸

THE JAPANESE POTTERY HANDBOOK

—NEW BOOK on sale at Maruzen and Kyoto Shoin Price ¥1,300—



When I came to Japan, about three years ago, I had no special interest in pottery. I had come here as a teacher, but after visiting many kiln sites while working in Kyushu, I began to develop an appreciation of Japanese pottery with its fine tradition and local flavour. The pleasure of looking around Japanese pottery shops to find things for my kitchen was complemented by my enjoyment of Japanese food.

When I moved to Kyoto, two years ago, I enrolled in a pottery school, arranging my working time to allow plenty of time for making pots. Gradually I began to know a little about techniques, but felt frustrated as I realized that language problems were blocking my progress. Although by that time I had some fluency in everyday conversation, I was lost when it came to the language of pottery. I did not even know basic words like 'rokuro' (wheel) and 'kama' (kiln). Language text books, pottery and dictionaries were of little help. This irritating language barrier was the stimulus for collecting information which has finally grown into a book.

With the help of my pottery teacher, Sodeoka Kanji, and an English friend, Lucy Kitto, who offered to draw illustrations, a little handbook was produced in February 1978. We printed 200 copies ourselves and asked readers to help us by giving suggestions for improvement and more information. We were delighted and surprised by the keen interest shown by readers, and very pleased when Kodansha International expressed interest in publishing an expanded handbook.

Our long hours of work collecting information to revise and expand the book, were rewarded by seeing 'THE JAPANESE POTTERY HANDBOOK' in the book-shops at last this month.

The book was written primarily for foreign potters studying in Japan, but may also be useful to potters abroad who are interested in Japanese pottery techniques. Since the text is in English and Japanese (with romaji and kanji for all pottery vocabulary), I hope it will also be used by Japanese potters who are interested in talking about their work to foreigners.

The book includes illustrated sections on tools and tool making, forming techniques, shapes, decoration techniques and kilns. The final section of the book is devoted to information about where to see pottery in Japan (including maps of present day kiln sites and list of museums) and a bibliography of books on pottery.

The book looks different from most other books, since every page was written and drawn by hand. I was very glad that Kodansha decided to keep the handwritten style as I think it makes the book more approachable.

My three years in Japan will soon be coming to an end, as I leave to join a pottery workshop in England in September. Living in Japan has changed my life in many ways and I feel glad to have started my pottery career in what I believe is the finest living pottery tradition in the world.

Penny Simpson



ミスキャンパス
こんにちは京子です！

外国人の先生、先生はみんな英語が話せなくて、先生はみんな英語が話せなくて、先生はみんな英語が話せなくて...

日加修交五十周年記念懸賞論文

応募要項

- 資格・制限：年令・性別・国籍など一切、制限はありません。
- 応募要項：論文は、1冊、1巻を限り、四コマ新聞の折込用紙に書き込んで提出してください。
- 賞格：特等賞(1名)、優等賞(2名)、佳作(10名)、奨励賞(20名)を設定いたします。
- 入選発表：入選者は、本会発行の「日加修交五十周年記念懸賞論文選集」に掲載されます。
- 賞金：特等賞(5万円)、優等賞(2万円)、佳作(1万円)、奨励賞(5千円)を設定いたします。
- 審査委員：日加修交五十周年記念懸賞論文審査委員会(会長：日加修交五十周年記念懸賞論文審査委員会)
- お問い合わせ：日加修交五十周年記念懸賞論文審査委員会(事務局：日加修交五十周年記念懸賞論文審査委員会)

コロコロパズル

ヨコのカギ

- ボクシング界の偉大なチャンピオン、モヘド・アリ
- 石油輸出国機構
- 新兵を求む
- 映画が〇〇になって残念
- 日本の代表的な遊藝地
- 「むらさき」ミカドリと言えば〇〇屋
- ラグビーでフォワードが組む
- 今流行の〇〇〇〇ゲーム
- 芝生を英語で

京都産業大学新聞綱領

京都産業大学新聞局は前新聞局の反省をふまえて以下のことを宣言する。

京都産業大学新聞は志士気風のある自主活動の重要な一部であり同時に学園内部の新聞であることから「教員の精神」の規定を基本的編集原則とすべしと定む。よって「自由の尊重」と「大学の自治」という二大理念をバックボーンとして編集を押し進めていく。

したがって、これを侵害しようとする勢力に対しては新聞がこれを防衛すべきものであることを確信する。

一条 京都産業大学新聞は京都産業大学に在籍する学生・教職員の思想的交流の場である。

二条 報道記事は公正で、特定の主義主張を排し、あくまでもリベラルな立場を守る。

三条 記事の表現にあたっては、内容の正確を期し、感情的あるいは煽動的傾向を排す。

四條 京都産業大学新聞局は京都産業大学の自治発展に寄与するダイナミックな情報提供機関である。

五條 京都産業大学新聞は学園内部の広汎な意見をその紙面編集に反映すべきである。

六條 京都産業大学新聞局は全学友とともに学園内部における学問研究・思想表現の自由擁護のために奉仕する。以上

昭和五十四年七月十日
京都産業大学新聞局

タテのカギ

- モンブラン、マッターホーン、ユングフラクといえは
- ロック球団の助っ人は〇-兄弟
- 7月に行われるプロ野球の球宴
- ナイロビで使ったコップ
- ギリギリスに似てガチャガチャと鳴く虫
- ニュークッド〇〇学
- 夏休み前の最後の苦しみは前期〇〇
- 〇ねえちゃん
- 夏の黒い机には、赤い〇〇がいい。